

英和同窓通信

No.89

同窓通信 発行

甲府市愛宕町112 山梨英和中高同窓会 電話(055)253-7991 編集発行人 小野 興子

四月十九日(土) 定期総会

二〇〇八年度の定期総会は来る四月十九日(土)湯村の常磐ホテルで開かれます。第一部総会につづき、第二部礼拝では小池牧子さん(S35卒)の証し、第三部親睦会は雨宮祐子さん(S35卒)の箏曲と野口舞さん(H12卒)のピアノの演奏を予定しております。



木田献一学院長(2007年総会)

日 時 / 四月十九日(土)
受 付 / 九時三十分
開 会 / 十時
場 所 / 常磐ホテル
会 費 / 五、〇〇〇円

今回の当番学年は、S35・S56・H14の皆様です。

お問い合わせ、お申し込みは同窓会事務局又はクラス委員まで。

甲府市愛宕町一二二
〇五五 二五三 七九九

クリスマス会



去る十二月十二日に恒例のクリスマス会が開かれました。例年より多くの同窓生が集い、約百五十名のにぎやかな会となりました。第一部では、深沢久子先生による「アヴェマリア」の献唱の後、宗教主任の大木先生の説教を拝聴しました。第二部の祝会では、日本を代表するパイプオルガンストの木田みな子先生が、パツハの作品等を演奏して下さいました。茶話会では楽しくなごやかなひとときを過ごしました。例年より多くの献金が集まり、以下の五団体に寄付させて頂くことに決まりました。

- ・ ひかりの家
- ・ いのちの電話
- ・ 山梨重症心身障害児を守る会
- ・ アジアキリスト教教育基金
- ・ 日本キリスト教海外医療協会



恐れず、迎え入れよ



中高宗教主任
大木 正人

イエス・キリストの誕生は母マリアが聖霊によつて身ごもっている事が明らかになつたという衝撃的な出来事から始まります。ヨセフは激しいシヨックを受けます。この事態にどう向かいあつたらよいのか。マリアを受け入れるのか拒むのか。マリアの体内の新しい命を引き受けるのか引き受けられないのか。信じるのか信じないのか。「ヨセフは正しい人であつたので、悩みます。「正しい人」とは神を信じ戒めに忠実に生きようと努めている人のことをいいます。いい加減な人なら悩みません。マリアを捨てれば済みます。彼女の裏切りを訴えればよいのです。婚約者を裏切つた女性の罪は石打の処刑にあたる重罪です。律法に忠実な「正しい人」ならば裁きを求めるべきです。同情もされません。しかしヨセフはそうしません。なぜでしょうか。ヨセフは本当に「正しい」決断とは何なのかと考へていたのかもしれない。「密かに縁を切る」こと

です。しかしもしそうしたら妊娠している婚約者を捨てた最低の無責任な罪人という烙印がヨセフには押されます。ヨセフはそれでよいと思ひました。マリアの事を「表ざたにすれば」マリアに石が投げつけられ、「密かに離縁すれば」ヨセフに非難が投げつけられる。どちらにしても世間は誰かに制裁の石を投げつけずにははいない。それならばマリアをかばい命を救おうとヨセフは思ひます。このように考へて夜を過ごすヨセフに、「主の天使が夢に現れ」て告げます。「恐れるな!」もつと積極的にマリアを迎え入れ、イエスと名づけ受け入れよ!と促します。

彼は迷いつつもこの呼びかけに応えます。彼を支えたのは、「神は共におられる」という言葉です。神様が自分を受け入れて下さつて居る。この約束に背中を押され彼はマリアを迎え入れ、新しい命と一緒に生き始めます。ヨセフやマリアと同じように私達もまた神の前を歩んでいます。「正しい人」として歩むとはどのようなことなのか。それを思いつつ日々を過ごしましょう。神様の救いは、その事を思い起こし、思い巡らして歩む私達一人一人を通して、この地に形作られ、具体的な形をとつて現れ、実現して行くからです。

木田先生によるミニコンサート

二〇〇七年のクリスマスは、木田みな子先生（木田献一学院長夫人）の美しいパイプオルガンの音色とともに讃美を捧げる豊かな時を与えられました。



主イエスの誕生を告げる輝く星を思わせる曲で始まった演奏は、次の救い主を迎え入れる喜びにあふれる曲へと誘い、最後の演奏（パッサカリア）は、繊細さと卓越した高度な技術で、私どもを魅了し、喜びと感動で満たしてくださいました。この木田先生のオルガン演奏会に多くの卒業生とその友人も参加していただき、多くの方々と共に喜びの時を分かち合えたことを感謝します。この美しい演奏のために、数回の練習に、東京から甲府まで、足をお運びくださいました木田先生のご努力と熱意に深い感謝を捧げております。（会長 小野興子）

先生お元気ですか？

保坂つる子先生

保坂（笹本）先生も、もう七十歳を越えられ、今はカナダ・バンクーバーにお住まいです。ご夫君の武夫先生が定年退職されてから、つる子先生の退職を待つてお二人でカナダに移られました。武夫先生念願の「禅」を欧米人に広めたいとお二人で禅の講座を開いて活躍され、地元バンクーバーの新聞にも度々紹介されていきました。つる子先生はグリーンバンク先生の所属された教会に籍を置き、武夫先生も一緒に教会に参列されていきました。そんなお二人はプール付きのコンドミニアムに住まわれながら、農地を借り、武夫先生お得意の野菜を育てています。



菜づくりに励まれ、本当に嬉しそうに、たおやかに過ごされ

卒業生による演奏会開催

古屋千枝子（S29卒）



この度、「第三回の山梨英和中学・高校の卒業生によるチャリティー演奏会」を開催する事になりました。第一回（九八年）、第二回（〇三年）と五年毎の開催ですが、歴史ある山梨英和で、時代は違っても、音楽の授業や聖歌隊で共に励ま

し合いながら学んだ仲間と一堂に会して、その後各自磨き上げられた音楽を発表し合い、演奏奉仕による収益を少しでも学校に寄付が出来ればと、実施の運びとなりました。今回も三澤慶子、宇野周子、五木田みどりさん等、連続参加の賛同者も多く力強く思います。締め括りの合唱には、皆様方多数ご参加下さい。最後は英和ならではの「ハレルヤコーラス」大合唱の感動を御一緒に楽しみましょう。出演希望者は四月十日迄受け付けております。要項等詳細は

ていました。仲の良いお二人の生活は永遠に続くように思われましたが、二〇〇六年二月に武夫先生は天に召されました。武夫先生は晩年受洗され、そのことをつる子先生は本当に嬉しそうに伝えてくださいました。今は、グリーンバンク先生の墓地の近くに眠っていらっしゃいます。三人の娘さんは英和を卒業し、長女やお孫さんは同じバンクーバーに、次女は埼玉県に、三女はカナダの東部ハミルトン市（トロント近く）で牧師をしていらっしゃいます。グリーンバンク先生の時いた種の確実さを知らされます。（深沢美恵子 S36卒）

窪田元治先生を偲んで



同窓会事務局、山梨英和卒業生による演奏会・Y E会までお問い合わせ下さい。日時・二〇〇八年九月六日（土）午後会場・山梨県民文化小ホール

戦後から昭和三十年代の卒業生にとって、「ガンチャ」と言えばすぐ浮かぶあのホームベース型の顔、男性教師の

珍しい時代、物理の教師として、ソフトボールの監督として、生徒たちに親しまれていた先生でしたが、昨年九月末亡くなくなりました。「消防自動車」の運名のように、鐘と共に現れ、鐘と共に去る、授業でした。ムチを片手にサツサと歩く姿が目には浮かびます。ソフトボール全盛時代、毎日遅くまでの練習、休日は練習試合等真つ黒に日焼けして指導する先生の姿、懐かしい光景です。娯楽の少ない時代、映写技師の資格を取得し、講堂でニュースや話題作等を見せてくれました。

年を重ね、生徒を直接指導する立場から校務主任、事務局長、幼稚園長等の要職を最後に学校を去りました。数年前奥様を亡くされ、一人住まいの先生の許に息子さんが達が週末に訪れ、お世話する日々が続きました。が少しずつ進み始めた認知症のため昨年一月からグループホームに入りました。昨年同窓会「花の日」に訪れた友愛部員に「山梨英和は良い学校でした。私はそこで教師として働いたことは幸せでした」と起立し、語られた言葉が印象的です。（古屋春美 S31卒）

今、学校では

学校行事の見直し

中学教頭 平石 あつ子



今年度、英和中学校は一四〇人の新入生を迎えて、総勢三八三名でスタートしました。多感なこの三年間を英和で学ぶことは、その後の人生を決定するくらい重要なことと肝に銘じて生徒たちと向き合っています。

今年度中学校では学校行事を大幅に見直しました。そこで、主に実施時期や内容を変えたものについて述べさせていただきます。

中でも大きく変えたのが、三年生の行事です。まず、IEC（英語強化クラス）カナダ研修は、昨年度より一ヶ月半も早く四月十七日に出発しました。見事なチームワークで、充実した五十日間の研修を終えました。さらには、従来十月に実施していた「職場体験学習」を夏期休暇中に実施したり、「リトリート（修養会）」を日帰りにしたりして、高校での学びを見据えて集中して学習に取り組めるように配慮しました。

合唱大会や英語劇などに取り込む過程で直面する試練は、時に生徒たちを混乱させます。

けれどもそれぞれによって学ぶものは計り知れません。

例えば、学年独自の宿泊行事（オリエンテーション・スキー教室）で神様に出会い、隣人と共に生きるために自分をコントロールすることの大切さを学びます。また、二年生は自由研究に取り組むことで、自らの研究テーマを発見し、ねばり強く探究する力を自分のものにしていきます。「敬神・愛人・自修」の校訓を学校行事を通して学んでいるのです。

英語教育も一層の充実を目指して、四年前から音声重視の「プログレス二十一」というテキストを用い、成果をGTEC（コミュニケーション能力試験）によって検証しています。その結果、カナダ研修を終えたIECは一年間で、一三九点の伸びを見せ、得点としては強化指定高校の二年生レベルを越えました。

教育は長いスパンで見えていくべきものでしょう。信仰に立ち、生徒たちの成長を信じつつ共に歩む日々を送っています。



以前は、国際協力の現場で実務家として長く活躍されていたとか。

主に、日本の政府開発援助（ODA）が実施している教育、貧困削減分野の事業計画や、それら事業の成果を測る評価調査に従事してきました。これまで調査のためにアジア、アフリカ地域の十数カ国を訪問しました。

そこで感じたことは、



まず、援助は一步間違つと「毒」にもなるという事です。援助する側の価値観の押し付けになったり、援助を受ける側の依存状態を増長したりする危険性があるという事です。

また、開発途上国と呼ばれる国々の貧困、紛争などの諸問題の要因は、グローバル化が進む現代においては私たちの生活と決して無関係ではなく、国を超えた公共の倫理や利益を考えていかなくてはならないと

感じました。

世界に目を向けるきっかけは、

英和高校二年の時に交換留学制度でアメリカに一年間滞在したことです。自分が生まれた日本という国を外から客観的に眺めたことで多くのことを考えさせられました。人間は生まれるところ（国や社会）を選ぶことはできない。だからこそ、人間が形成されていく社会構造や価値観、制度や文化を理解しようとする態度が不可欠であるということを学びました。

今後の抱負を。

現在、明治大学大学院で国際協力論などを担当しています。日本人の学生だけでなく、フィリピン、バングラデシュ、ブータン、カンボディアといった国々の学生も学んでいます。彼らのほとんどが母国の行政官で、貧困を削減するための政策形成について正面から取り組んでいる人たちです。彼らの真摯な態度に接していると、改めて「経済的に豊かな日本に住む私たちには何が出来るのか、それらの国々の自主的な取り組みを尊重した支援とはどうあるべきなのかを考えさせられる日々です。

今後は現場に役立つ理論的な研究にも精進していきたいと思っています。

プロフィール

国際基督教大学卒、アメリカ国際経営大学院（サウンダーボード）修了。国際協力事業団（現国際協力機構 JICA）、国際開発高等教育機構（FA SID）勤務を経て、現在、明治大学大学院がバナンズ研究科准教授

OG NOW

国際協力の現場で考えたこと

源 由理子 さん（S51卒）

東京支部便り

東京支部総会のお知らせ

日時 五月十日（土）

午前十一時～午後二時

場所 京王プラザホテル（新宿）

二〇〇八年

ハレルヤの会参加者募集

東京支部では古屋千枝子先生のご指導のもと、月に一回、二回、世田谷区の池ノ上青年センターに集まって合唱を楽しんでいます。甲州弁も飛び交う和気あいあいの会ですので、是非ご参加ください！

二〇〇七年

東京支部ファミリークリスマス会

十二月一日（土）阿佐ヶ谷教会で東京支部ファミリークリスマス会が開催されました。礼拝では、関西学院大学名誉教授・船本弘毅先生（前東洋英和女学院院長・前東京女子大学学長）の説教を伺いました。今回は手作り小物やお菓子の販売に加え、杉山千代美さん（S33卒）が活動していらつしやるACEF（アジアキリスト教教育基金）のバングラデッシュ製手作り製品のバザー販売コーナーも併設され、同基金の運動も紹介されました。

友愛部

友愛部ケーキ作りの一日

朝九時半、同窓会室より中学調理室へ材料搬入開始。数往復後、搬入終了。各自分担当を決め、作業開始。材料計測係、リングゴや胡桃を刻む者、皆、お口の筋肉を鍛えながらも手元に狂いはありません。サクサクと小気味良い音と共に、リングゴが山の様に刻まれていきます。パウンド一本に一個以上のリングゴが入ります。一度に十九本のケーキを五十分程焼きます。これを四回繰り返し、七十六本のケーキの完成です。「私達ブロみたい」と自画自賛しつつ、調理室の清掃終了です。立ち通して、笑顔で働いてくださった武井部長、部員の皆さん、有難うございました。

河田節子 (S46卒)

写真は花の日に榎本愛子先生を訪問した時のものです。



事業部

事業部は同窓会の財源確保のため、中村京子部長を中心に、バザーの開催や、秋の集い、クリスマス会等で販売する手芸品の作成をしています。



バザー作品制作

その集まりのある日は朝からワクワクしているのは私だけではないのでは？ センス抜群の部長の手ほどきによる手芸品作りに集まる部員は常に十名を超える賑わいです。和気あいあいの雰囲気の中、皆手も口も(?) 良く動いています。時々、今皆さんが作っているものは売り物ですから...と部長の遠慮がちな声が聞こえます。責任ある役を常に冷静にこなし、しかも部員に温かい心配りをけつして忘れないうち中村事業部長。一つの事業が無事終了した時の部長のステキな笑顔を見たいがために事業部員一同せつせと母校に通っているような気がします。

古屋知子 (S47卒)

ホームページ

リニューアル!

昨年から、同窓会の最新情報を、すぐにお知らせできるようにになりました。どなたでもご覧になれるようにとパソコン教室も開かれました。どうぞご覧下さい。

皆様からのメッセージも受け付けております。アドレスは y-eiwa.com です。

事務局から

焼けつくような真夏のある日、「年会費」を届けて下さった岡山在住S15年卒のM様「毎年届く同窓通信が楽しみです。三念坂を上り、山々を眺め、数十年前のことを思い出しました」と汗をふきながらお話ししてくださいました。一緒に麦茶を飲みながら同窓生一人ひとりからいただく「年会費」の重さを感じました。晩秋の一日、幽清会のお誘いで富士霊園、文士のお墓の一角にある故小柳津政子様のお墓参りをする事ができました。感謝です。同窓生が気軽に連絡したり、訪れてほっとできる事務所でありたいといつも考えております。みなさまのご連絡をお待ちしております。

寄付者名簿

二〇〇七年四月〜二〇〇八年八月

- 小笠原愛子様 (T13)
- 峰丘 奈知様 (S55)
- 岡田 恭子様 (S46)
- 有志 (S56)
- 小嶋 久子様 (S19)
- 故鶴田 景子様 (H12)
- 桑島 一郎・慶子様 (S19)
- 戸泉恵美子様
- 大木 正人先生
- 木田みな子先生
- 故小宮山友代様 (S11)
- 深沢美恵子様 (S36)
- 久保ひろ子 (S6)
- 秋山 朋子 (S52)
- 保坂 羊祐 (S3)
- 雨宮 清子 (S21)
- 清水ともし (S7)
- 石井 直子 (S47)
- 志村なみじ (S5)
- 西川 敏 (S20)
- 桜林 洋子 (S38)
- 金丸夏奈子 (S59)
- 古郡 武子 (S9)
- 入原 梅子 (S6)
- 小野いづみ (S9)
- 小宮山友代 (S11)
- 矢崎 律子 (旧職員)
- 窪田 元治 (旧職員)
- 石田かほる (S16)
- 貝川 蟻江 (S27)

おくやみ

(二〇〇七年三月〜二〇〇八年二月)

ご召天者お名前

- 大塚 紀子 (S42)
- 村松 忠美 (S37)
- 清水たまじ (S10)
- 上野富美江 (S17)
- 名取 初子 (S12)
- 鈴木ふじ江 (S13)
- 加藤 育子 (S24)
- 篠原美奈子 (S23)
- 高崎百恵子 (S40)
- 望月真理子 (S48)
- 中込 栄子 (S15)
- 浜田 京子 (S13)
- 梁瀬美恵子 (S32)
- 乙顔小枝子 (S6)
- 宮島 里子 (S32)
- 笹本 町子 (S30)
- 小宮山節子 (S26)
- 越山 鶴子 (S12)
- 久保ひろ子 (S6)
- 秋山 朋子 (S52)
- 保坂 羊祐 (S3)
- 雨宮 清子 (S21)
- 清水ともし (S7)
- 石井 直子 (S47)
- 志村なみじ (S5)
- 西川 敏 (S20)
- 桜林 洋子 (S38)
- 金丸夏奈子 (S59)
- 古郡 武子 (S9)
- 入原 梅子 (S6)
- 小野いづみ (S9)
- 小宮山友代 (S11)
- 矢崎 律子 (旧職員)
- 窪田 元治 (旧職員)
- 石田かほる (S16)
- 貝川 蟻江 (S27)

新入会員受入れ式

三月に卒業を迎える一三四名の新入会員の受入れ式が、去る一月二十三日に行われた。入会記念品として、昨年に引き続き「山梨英和 礎のときを生きて」が贈呈され、新入会員を代表して宮坂恵理子さんが挨拶。小野同窓会長の歓迎のことは、各部の活動状況の説明などを緊張した面持ちで生徒たちは聞き、静かな中にもなごやかさの感じられる式であった。



編集後記

懐かしい英和時代へ思いを馳せていたと、一同心をこめて編集しました。二歳の子を連れて家族のような温かい雰囲気の中で広報部活動ができること、感謝です。

(R)